

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2022年度(令和4年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2022

(文化庁 令和4年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進める。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2022

2022年11月18～19日(予定) 会場：岩手県公会堂ほか(岩手県盛岡市)

R4年度の全国コミュニティシネマ会議は、昨年度、開催がかなわなかった東北・盛岡市で開催する。

2011年3月11日東日本大震災から11年、震災と津波の甚大な被害から立ち上がってきた被災地で行われてきた上映活動を紹介する。特に震災後に生まれた映画館のない町における上映活動に着目する。

また、新しい映画祭のあり方、コロナ以後の上映活動・映画館の変化、上映に対する公的な支援制度を考える事例報告やディスカッションを行う。SAVE the CINEMA等と連動して、上映に対する支援制度の確立を求める「宣言」を出すことや、海外ゲストの招聘も検討。

分科会(ワークショップ)も実施する。(3分科会を予定)

分科会例

- ・映画館を存続させるために「上映活動支援」制度
- ・本と映画は相性がいいね！ 図書館やミニ書店・ライブラリーと映画館の併設
- ・自主上映とコミュニティシネマ「映画館以外の映画の場所」
- ・こどもと映画プログラム/夏休みの映画館

(2) 上映者育成のための講座・ワークショップ

－映画館・上映者のためのコンプライアンス講座

実施期間：2022年夏(予定) 実施会場：東京(オンラインで実施)

文化事業を行う団体や施設における労働環境やハラスメントを考える。ミニシアターや上映団体が考えねばならないコンプライアンスやガバナンスについて専門家の話を聞き、基本的な知識を学ぶとともに、労働関連の必要な規程等を整える。

－上映振興制度のあり方を考える講座

実施期間：2022年6～10月 2回程度実施(予定) 実施会場：東京(オンラインで実施)

映画館や上映者にとって望ましい「上映支援」のあり方を考える。

－アートマネジメントワークショップ イン 東北

実施期間：2022年夏～2023年初春を予定 実施地域(予定)：福島県(南相馬市)

東日本大震災後、2013年から10年間にわたって実施してきた「アートマネジメントワークショップ イン 東北」、岩手県北部では多くの新しい上映者が生まれ、上映活動が盛んに行われている。

今年度は、東北に地域を限定することなく、必要とされる場で上映者養成のためのミニ・ワークショップを実施する。

(3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

－「こども(若年層)と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、こども（中高校生を含む）を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行う。「夏休みの映画館」と連動した形で実施。

①「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法（子ども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々）を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングを定期的に行い、ワークシートの作成などを行う。

② 上映作品資料（ワークシート）の作成

子ども向け上映会のための作品のテキスト（ワークシート）を作成する。

『ゼロ弾きのゴージュ』（高畑勲監督）、『タレントタイムー優しい歌』（ヤスミン・アフマド監督）

③ 子ども映画館（上映会）の実施

- ・定期的に子ども向け上映を行う上映団体と共同で上映会を開催する。（3～4会場）
シネマ四国・川崎市アートセンターほか
- ・こども（高校生まで）ワンコイン上映会の実施。実施する映画館・上映団体を募集。年間を通して10会場程度で実施。

ー若手監督作品上映推進プロジェクト

実施期間：2022年初夏～冬を予定 実施会場：全国各地の映画館・上映団体10館程度で実施

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者の旅費を負担する。また、複数のミニシアターが連携して実施する市民・観客が参加できる地域交流・上映企画など、新しい映画館の魅力を発信する事業を開拓・実施する。

(4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R4年度は、ウェブサイト「Fシネママップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施する。

ーFシネマのウェブサイト「Fシネママップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネママップ」fcinemap.com、「アートハウス・プレス」arthousepress.jp の運営。

また、2023年度の企画として「日韓交流Fシネマ・プロジェクト」を検討する。

ーフィルム上映会の実践

実施期間：2022年11月 実施地域：盛岡(予定)

映写技師の育成と、フィルム文化の魅力と重要性を伝えるため、全国コミュニティシネマ会議に合わせてフィルム上映会を開催する。

フィルムでの上映を「フィルムdeシネマ ウィーク」などの名称をつけて全国一斉に行い、関心を喚起するような企画を検討する。

[2] 「映画上映活動年鑑2022」の作成

(文化庁 令和4年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

映画の「上映」は、「興行」という商業行為であると同時に文化事業、公共事業でもある。

本年鑑では、幅広い視点から上映活動をとらえ、「映画館での上映（興行）」（及び配給）に関する既存のデータを活用しながら、映画館や公開作品に関する独自のデータを収集し、これに映画祭やシネマテークなど公共的な上映活動に関するデータを加え、都道府県別に全映画館リストと公共の上映活動に関するデータを付して、我が国における映画上映の現状を提示し、分析する。文化事業、コミュニティ事業という視点から上映の状況を提示し、分析することにより、国あるいは地方自治体の、上映活動に対する関心を高め、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指す。

「映画上映活動年鑑2022」内容(予定)

I 映画館での上映

(1) 概況

スクリーン数の推移[1993-2022] /観客数の推移[2013-2022] /種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化[2005-2022] /地方別にみる種別別映画館数・スクリーン数の変化[2013/2022] /全国映画館地図(種別別)[2005/2022]

(2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2013-2022) /興行収入の推移[2013-2022] /1作品あたりの観客数[2013-2022]

公開作品の上映館数 [公開規模] /2022年に映画館で公開された映画の分類

2022年興行収入10億円以上作品 [日本映画/外国映画] /興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画

(3) 諸外国との比較 北米・イギリス・フランス・韓国等とのデータの比較

観客数 /年間鑑賞本数 /スクリーン数/館数 /1スクリーン当たりの人口 /入場料金・興行収入 /シネマ・コンプレックスの割合 /公開本数

(3) 都道府県別概況

都道府県別概況(人口/映画館数/スクリーン数/年間観客数/1スクリーン当たり人口/1スクリーン当り観客数/一人当たり年間鑑賞回数) 都道府県別スクリーン数の推移[2013-2022]

都道府県別にみる種別別映画館数・スクリーン数の変化

II 公共上映

(1) 映画祭 全国映画祭リスト

(2) 公共ホール 映画を定期的上映している公共施設リスト

(3) 公共の映画専門施設 公共の映画専門施設（アーカイブ、シネマテーク）リスト

(4) 主要な自主上映団体一覧

III 特別調査

以下のテーマを検討。

映画振興策を検証する

2003年に出された日本映画の振興に関する提言の後に行われた文化庁（芸文振）及び経産省や厚労省、外務省（国際交流基金）による映画振興策、ユニジャパンやVIPO等によって行われている映画振興のための施策の現状と課題を提示する。

IV 世界の映画上映事情 現地調査

新型コロナウイルスの状況を見ながら、実施を検討。

V 資料

(1) 都道府県別（映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭） 地域別映画地図

(2) 全国コミュニティシネマ会議採録

(3) 上映に関わる用語集

2. 自主事業

[1] 「SAVE the CINEMA!」 事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行う。

例)

全国コミュニティシネマ会議で「宣言」を出す。

文化芸術推進フォーラムへの加盟 / 他の団体（Save the CINEMA、action4cinema 等）との連携

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

(2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウス・プレス） 芸術電影館通信」を運営する

(3) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討する。

ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

デジタルシステムの更新に関する情報提供・情報共有

[2] 「こども（若年層）と映画」プログラム

(1) 「夏休みの映画館2022」の開催

（文化庁R3年度補正予算「Arts for the Future！2」）

夏休み期間中に、地域に暮らす子どもたち（小学生～高校生）に、地域のコミュニティシネマを訪れてもらうための取り組み。

子どもたちに見せたい、多様で、魅力的な映画7プログラムを上映。上映後には、映画館スタッフによるワークショップや、多彩なゲストによるトークを行う。ミニシアターで「子どもと映画プログラム」担うスタッフを育成する端緒とする

日程：2022年7月30日 [土] ～8月5日 [金] 予定 ※金曜日～木曜日の館も有

対象：小学生～高校生（観客としては大人も可。各館ごとに検討）

料金：500円均一（高校生以下）

会場（予定）：横浜シネマ・ジャック&ベティ、シネマテークたかさき、シネ・ヌーヴォ（大阪）、元町映画館（神戸）、DENKIKAN（熊本）、ガーデンズシネマ（鹿児島）、松本シネマセレクト 7会場

※ 週末のみの開催も可とし、この期間に行われるこども（若年層）を対象とする企画を「夏休みの映画館」としてロゴを掲載する団体を募集する。

上映作品

1 サイレント映画をライブ（活弁・演奏付）で上映。

劇場ごとに異なるプログラムで、活弁・演奏付のライブ上映会を開催。

2 『ゼロ弾きのゴーシュ』63分/1982年/監督：高畑勲/日本

劇場ごとに上映に合わせてチェロのミニコンサートなどを企画。

3 『ロシュフォールの恋人たち』127分/1967年/監督：ジャック・ドゥミ/フランス ※ミュージカル

上映後にフランスの教育プログラム担当者B.ボーヴィーさんによる解説映像を上映。

4 『ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記』106分/2019年/監督：平良いずみ/日本 ※ドキュメンタリー

トークゲスト：平良いずみ監督ほか

- 5 『タレントタイムーやさしい歌』115分/2009年/監督:ヤスミン・アフマド/マレーシア
トークゲスト：杉野希妃（俳優・監督・プロデューサー）
- 6 『キャロル』118分/2016年/監督：トッド・ヘインズ/アメリカ PG12
坂本安美（アンスティチュ・フランセ日本映画プログラム主任）セレクション。ミニレクチャー付上映。
- 7 『夜明け告げるルーのうた』107分/2017年/監督：湯浅政明
関西でミニシアターを応援する学生グループ「映画チア部」によるトークイベント。

(2) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業
巡回予定…シネマ四国（高知）、川崎市アートセンター、兵庫県映画センターほか
- 新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション！」に続くプログラムを策定する。

(3) ウェブサイト「こども映画館」の更新

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.4 の巡回

アンスティチュ・フランセが、フランスの映画メディア（新聞、雑誌、テレビ局、ウェブ媒体等）、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画を選りすぐり紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在をめぐって～」。vol.4では、フランスの人気カルチャー・マガジン雑誌「レザンロキ ユプティール」の編集長ジャン＝マルク・ラランヌがセレクションを担当、2020年以降の製作作品から最も刺激的なフランス映画を上映。また、合わせて女優デルフィーヌ・セリグの特集を行う。コミュニティシネマセンターでは、2022年10月の東京での開催後、上映された作品の中から10作品程度を選び、全国に巡回する。2021年度に巡回したVol.3作品についても引き続き、上映会場を募集する。
横浜シネマ・ジャック&ベティでの上映はコミュニティシネマセンター共催として、若年層を対象としたプログラム（レクチャー付）を併せて実施する。
巡回予定：大阪シネ・ヌーヴォ、京都出町座、横浜シネマ・ジャック&ベティ、広島市映像文化ライブラリー、名古屋シネマテーク、シネマテークたかさき 他
Vol.3 巡回作品は、2021年度事業報告参照。

(2) ジョージア映画祭2022

ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集め、デジタルリマスター版で一挙上映する「ジョージア [グルジア] 映画祭2022」。コミュニティシネマセンターで全国に巡回する。
主催：ジョージア映画祭2022実行委員会 企画：はらだたけひで
共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター
巡回予定：高崎映画祭、京都みなみ会館、横浜シネマリン、大阪シネ・ヌーヴォ、広島市映像文化ライブラリー、川崎市アートセンター、名古屋シネマテーク、大分シネマ5ほか

巡回作品

【Aプログラム】 シェンゲラヤ家の栄光

- 『エリソ』（ニコロズ・シェンゲラヤ監督/1928/80分）
『アラヴェルディの祭』（ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1962/52分）
『白いキャラバン』（シェンゲラヤ+メリアヴァ共同監督/1963/97分）
『青い山一本当らしくない本当の話』（エルダル・シェンゲラヤ監督/1983/97分）

【Bプログラム】 画家ニコ・ピロスマニ特集

- 『ピロスマニのアラベスク』（セルゲイ・パラジャーノフ監督/1985/23分）
『ピロスマニ』（ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1969/88分）
『ピロスマニ・ドキュメンタリー』（ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1990/49分）

【Cプログラム】 よみがえった歴史的名作

- 『ハバルダ』（ミヘイル・チアウレリ監督/1931/61分）

- 『失楽園』(ダヴィト・ロンデリ監督/1937/83分)
『マグダナのロバ』(チヘイゼ+アブラゼ共同監督/1955/71分)
『ナイロンのクリスマスツリー』(レゾ・エサゼ監督/1985/77分)
【Dプログラム】ミヘイル・コバヒゼ監督特集
『結婚式』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1964/21分)
『傘』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1967/21分)
『音楽家たち』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1969/14分)
『井戸』(エルダル・シェンゲラヤ監督/2020/21分)
【Eプログラム】テンギズ・アブラゼ監督『祈り 三部作』※配給ザジフィルム
『祈り』(テンギズ・アブラゼ監督/1967/78分)
『希望の樹』(テンギズ・アブラゼ監督/1976/107分)
『懺悔』(テンギズ・アブラゼ監督/1984/153分)
【Fプログラム】第1回ジョージア映画祭アンコール
『私のお祖母さん』(コンスタンティネ・ミカベリゼ監督/1929/67分/サイレント)
『スヴァネティの塩』(ミヘイル・カラトジシュヴィリ監督/1930/44分/サイレント)
『大いなる緑の谷』(メラブ・ココチャシュヴィリ監督/1967/85分)
『少女デドゥナ』(ダヴィト・ジャネリゼ監督/1985/64分)
【Hプログラム】国民的映画『ケトとコテ』を極める
『ケトとコテ』(タブリアシュヴィリ+ゲデヴァニシュヴィリ共同監督/1948/90分)
『喜びの家』(メラブ・ココチャシュヴィリ監督/2008/64分)
『「ケトとコテ」を求めて』(ダヴィト・グジャビゼ監督/2009/66分)
【Iプログラム】ゴゴベリゼ家・女性監督の系譜
『ブバ』(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1930/39分/サイレント・サウンド版)
『ウジュムリ』(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1934/56分/サイレント・サウンド版)
『インタビュアー』(ラナ・ゴゴベリゼ監督/1977/95分)
『幸福』(サロメ・アレクシ監督/2009/30分)

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行う。